

全国市議会議長会研究フォーラム 報告 山根兼三郎

令和5年10月25・26日

西日本総合展示場 北九州市小倉

- ① 「躍動的でワクワクする市議会に」 講師 片山善博 元鳥取県知事
 - ・ 既存の制度の中でもいろいろできる
 - ・ 鳥取県は予算案の修正も議会でよくあり、より良い予算になった
 - ・ 予算や議案に住民の声を取り込む。例、米市議会委員会での市民からの意見聴衆
 - ・ 丁寧な審査をしていく。執行部の説明を鵜呑みにせず裏を取るなど、
- ② 「統一地方選挙の検証と地方議会の課題」
 - ・ 主権者教育の重要性
 - ・ 議員ではない層の市民の意見を取り入れる
 - ・ 議会基本条例のアップロード
 - ・ 地方議会事務をサポートする県単位等での連携組織
 - ・ 議員活動でのハラスメント。選挙でも
 - ・
- ③ 「議員のなり手不足問題への取組報告」
 - ・ 無投票だからって、安易に議員定数削減にむすびつけない
 - ・ 女性の立候補は依然としてハードルがある。特に出産と子育て中には、

「感想」

地方政治の責任を担う議員が専業であるのは理想ではあるが、小規模自治体の本市では専業として議員を職業とすることは難しいので、今後も兼業を前提とした議会の有り様を検討していくことに成ると思います。そうであるならば宙ぶらりんな職業という位置づけであるので、専門性や社会一般ではない勤務時間や待遇について、自治体に応じたやり方を形成することになると思います。

また一方で、性別や職業、年齢など市民の平均的構成とは異なるような議員構成になる場合には、そうでない市民の声を集めていくような取り組みを議会として行う必要があります。

これまでの進め方が当たり前と思考停止していたかもしれないので、今後の議員活動を改めていきたい。